

# 市民文芸

## 短歌

令和五年度  
阿南市春季短歌誌上大会 選

### 入選

窓ごしに見上げる青空白い雲百花に先駆け梅花  
ほころぶ 宮崎真由美

遠き日の灰色のわが思春期に灯ともしし人いま  
いずこ 金本ひろみ

値上がり流されまいぞ今の世を諦め半分それ  
でも生きる 渡邊 良子

梅かおる裏山彼方の空ながめ九十三歳の恥心が  
うごく 久積多美子

恙無く九十一歳迎えけり残る人生媚びず驕らず  
西田 修身

天国より見守りくれてか夫と息子よ仰げば潤む  
満天の星 勢井 恒子

八十路より生るる歴史もあらんかと指折りつく  
る早春の歌 黒部 君代

マグカップに溢れんばかりのコーヒーを飲んで  
た亡夫にもう一度逢いたい 川口 節子

さざん花を散らせ作れる花土俵小禽のサミット  
日の昏るるまで 福岡 孝子

ピーヒョロと鳶は鳴きおり餌くれしばあちゃん  
居ないよ天国行つた 森田 道子

今日内科明日は眼科と歯科に行き医者のはしご  
で生かされ生きる 松江 敬子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

春蘭くや酒のつまみの蜜鳥賊はちたりのいか

河内 おと

汐の香の鼻つく波止場雲の峰

山野 賢治

貝殻を皿のひとつに夏料理

青木 慧

じつとしてふき出す汗の生きてゐる

東明 陽子

石段にへくそ葛の長々と

中川よし子

冷蔵庫開けて冥土の風来る

駒木 幹生

かなぶんの幼虫わんさ植木鉢

末岐 美子

マンホール窪みに蟹の戯れる

末広なおむ

しろがねの鮎の跳ねたる吉野川

中分 明美

沢蟹よ道横切るな轆かれるよ

可 仙

## 川柳

阿南川柳会 選

会社でも家の中でも平社員

神野 鈴代

肩書きが一人で歩き身にあまる

近藤 大地

寄り添って苦楽を越えて来た八十路

二階千代美

やる気ある人に集まるカゴメの輪

野村 敏子

固いのは頭だけではない老躯

高木 旬笑

ストップを知らぬ食欲見る若さ

持木 寿栄

傷付いた大地多くを語らない

渡邊 浪漫

### 一般応募

言い訳を先にながら横座り

秋川 和子

くねくねと緑豊かな森に滝

島尾美津子

皮算用楽しくて買う宝くじ

武田 敏子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

### 新秋

炎蒸一去入新秋

炎蒸一去 新秋に入る

已聽莎鷄唧唧嘔

已に聴く 莎鷄唧唧の嘔

夜課几邊人懶祭

夜課の几辺 人懶祭

不知頭上月輪浮

知らず 頭上月輪の浮かぶを

### 感慨

君去難忘壯健姿

荒瀬左知子

春秋幾度物華移

春秋幾度か 物華移る

孤栖逸樂天容處

孤栖の逸楽 天の容す処

終夜唯專翫月詩

終夜唯だ専にす 月を翫ぶの詩

### 露軍侵寇

銃絨無辜愆大道

田中 公

砲摧有象覆平生

砲は無辜を弑して 大道を愆り

天人勿許彼元帥

砲は有象を摧いて 平生を覆す

不止千回此吐情

天人許す勿かれ 彼の元帥

